

(再開 午前11時40分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き議を開きます。

6番、丸山邦久議員。

(「はい、議長。6番。」の声あり)

(6番 丸山邦久 議員 登壇)

議長（勝山 正）

なお、丸山邦久議員には、事前に資料の持ち込みの申請があり、これを許可しましたのでご了承願います。

1. 少子化対策プロジェクトについて

6番 丸山邦久 議員

それでは、質問が許されましたので、私の方からは3項目にわたって質問をさせていただきます。

1つ目、少子化対策プロジェクトについてであります。

令和7年3月に発行された木島平村第7次総合振興計画（以下、総合振興計画。）を見ますと、基本構想が基本計画に反映し、さらに、基本計画が実施計画と地区づくり計画に反映するとされております。その総合振興計画の基本計画の重点プロジェクト①に「少子化対策プロジェクト」が挙げられています。「若者の結婚・出産・子育ての希望を叶える」良い言葉ですね。村長の強い決意が感じられてとても力強い宣言文であり、期待をしております。そこで伺います。

先日、令和8年度から令和11年度までの実施計画書が渡されたが、基本計画の少子化対策プロジェクトは、どのように反映されているのか伺います。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

お答えします。

少子化対策プロジェクトにつきましては、5つの基本目標の中から施策を選定し、少子化対策プロジェクトとしています。実施計画では、出産、子育て支援、医療の充実、住環境や教育環境の整備など、既存及び新事業を含めて39の事業を少子化対策プロジェクトとして取り組んでいくこととしております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

今、39の事業を少子化対策プロジェクトとしていますが、この総合振興計画ができて、新たに費用を増やしたとか、新たに取り組むとかという事業はあるんですか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

既存及び新規も含めて39ですので、新規事業はございます。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、新規事業は、具体的にはどういう事業でしょうか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

すいません、ちょっと今手元に資料がございませんので、何が新規というののはちょっとすいません、お答えできません。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

では、いつどのようにお答えいただけますか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

また委員会の中でお示しをしたいと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

お答えできないということなんで、またそれを聞きながら、次のこういった機会に質問させていただきたいなと思っております。

それでは②にいきます。総合振興計画では、「村に住み続けたい」意向を持つ15歳から19歳は30%であり、「村外に転出したい」が50%になっています。この原因は何だとお考えですか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

ご質問の調査におきましては、15歳から19歳の「村外に転出したい」と答えた人の理由では、最も多い回答が「職場・学校に通うのが不便だから」で、次いで「買い物、病院など生活するうえで不便だから」、また「趣味や余暇を楽しむのに不便だから」「別の市町村に住んでみたいから」と回答されています。15歳から19歳では高校進学、また、大学、各種専門学校等に進学する年代もあることから、この調査から考えますと、希望の進学先が近くにないということが大きな要因と考えられます。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、希望の就職先はあるというふうに考えてよろしいですか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

就職も含めてというふうに認識をしております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、すいません。ふう太ネットさん、参考3を出していただけますか。

（ふう太ネットにて持ち込み資料を放送）

画面をご覧の皆さんにはちょっと細かくて見づらいかもしれませんが、これは、「家計構造調査（令和1年度）」（総務省）等を基に、国土交通省国土政策局が作成した表であります。

一番上の表で、ブルーのところの上ですけども、それを見ますと、処分所得順位が東京都が1位です、この赤く囲ってある。長野県は、意外に高く9位なんです。これは、長野県意外に頑張っているとは思ったんですが、その下のところの可処分所得順位（A）、これは、所得の高い方から低い方に向かって中央値、下から40%と上から60%の人の平均をとると、非常に私はびっくりしたんですが、長野県は所得が高いんですよ。茨城、埼玉、長野の順になっています。東京はここで5番に落ちちゃう。いかに東京というのは、所得の高い人がとんでもない所得を得ていて、普通に就職した人たちは低いのかということを実に示していると思うんです。これはやはり、この地域に住み続ける魅力としてアピールした方がいいと思うんです。東京都の中央世帯は、長野の中央世帯の下です。

次にピンクの方にいきますけれども、東京都というのは非常に物価が高くて、家賃、それから食料費、光熱水道費が高くて、一番右端のところ一番高い方に東京都がいております。長野県も意外に高く、高い方から15番目。ここから何が紐解けるかということ、長野県において所得の低い人というのは非常に生活が苦しいということになりますよね。だから、所得の低い世帯をつくらない。これが一つのこの村の政策になると思うんですよ。

さらに、その下のグリーンのところ、先ほどの可処分所得順位（A）から今の基礎支出を引くと、長野県は4番目になります。東京都は、ずっと下がってきまして47都道府県中で25位。最後のは、あまり私問題にしたくないんですけども、通勤時間を勘案すると、長野県はそれでも4位、東京都は47都道府県中で40位。果たしてこれで東京に出て行って良い生活ができるのか、そこに夢があるのかということ、私は疑問を感じざるを得ない。

そこで伺いたいと思います。3番にいきます。

出生率を増加するには、若者の村外流出を防ぐ、結婚を促進する、子育て世代の流入を図ることが有効だと考えるが、村長の考えはどうか。対策をとられているかを伺いたいと思います。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

ご質問の中に掲げられたことが有効かということに対しては、そのとおりだと思います。

令和5年度学校基本調査における長野県の大学等及び専修学校等への進学者の割合は79.8%であり、概ね8割が高等学校卒業時点で進学をするという状況であります。進学のために一旦村外へ転出する、そういう状況はある程度仕方がないと思います。

そこで、現在行っている対策としては、まず村に戻って来てもらうためのものとして奨学金の返還支援事業、それから、UIJでターン就業創業移住支援補助事業などを実施しております。そのほか、結婚の促進としては、結婚マッチングサービスの利用料の補助、婚活イベント参加費の支援補助、大人の同級会支援補助事業などを行っております。

そしてまた、子育て世帯の流入対策としては、住環境整備として家賃補助、住宅等の補助事業として住まいづくり補助金、子育て世帯の大規模リフォーム補助金、そしてまた、民間事業者が建てる経費に対する賃貸住宅建設補助事業、村営住宅建設事業、これは今年一戸4世帯分進めておりますが、宅地造成や分譲事業などを実施し、今後も計画してまいります。

また、この木島平が好きで、いつか戻ってきたいと思ってもらえるような教育として、「ともに学び合う木島平型教育」もその取組の一環として捉えてもいいのではないかと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

これは、以前も話したことあると思うんですが、岡山県奈義町、合計特殊出生率が2.5を切らない。木島平の令和4年の合計特殊出生率は1.42。明らかに奈義町の方が子供を持つ人が多い。これ村長少し勉強する気になりませんか。

この間、奈義町の岡町長の話聞いてまいりました。奈義町の子育て支援、経済的支援と精神的支援、この2つに分けているようであります。経済的支援については木島平でもいろいろやっています。そんなに大きく劣ることはない。また次のときにこれは出しますけども、精神的支援は向こうの方が上だなという感じを受けております。この経済的支援、精神的支援は次回に送りますので考えませんか。少し血の通った支援をしていただきたいと思うんです。ただこういう補助政策がありますじゃなくて、それをやったからと言っても反応がなくてはだめではないですか。やはり反応があるような村にしていかなければいけない。そこを今回私は目的にしてこの質問をしているんですよ。

村長は以前「少子化に対する特効薬がない。」とおっしゃいました。私はあると思っています。さっき言いました、この参考3の資料を見れば明らかですよ。要は、この村に働けるような職場がないから、こういう反応がないんですよ。ここの村で確かに収入を得て生活していくという目途が立っていれば、もっともっと反応がある。現状ないからそうなんです。なければ作らなければいけないわけで。そういうことに、さっきの総合振興計画ですか、それから実施計画に落ちてくるものが含まれていなければいけないと思うんですが、ほぼほぼそれについては、何度もやりませんかと言ってもやられてこない。ここがやっぱり一番問題だと私は思う。質問にならないですね。だけど、やっぱりそこを考えてないものは作る。作るしかないんですよ。そういう姿勢で村長にやっていただきたいんですが、ぜひそういう気持ちがあるかどうか伺いたい。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

ご指摘のとおり、働く場の確保というのは大事だろうと思いますが、ただ、村としてどのような産業で働く場を確保するのか。それについては、今の議員のご意見等もお聞きしながら、また参考に考

えていきたいと思ひます。

ただ、前段ありました少子化対策の柱が2つあるということは、これについては私も以前から申し上げているわけであります。経済的な支援だけで少子化対策にはならない、なかなか効果が得られないというのが実感としてもあります。それ以外の対策について、またこれからいろいろ検討してまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

考えるだけじゃなく、やはりPlan・Do・Check・Action。Planだけじゃなくてdoをやっていただきたい。そこを切にお願いして4番目にまいります。

議長（勝山 正）

丸山議員。ここで中途になってしまうので暫時休憩したいと思ひますが、よろしいですか。

6番 丸山邦久 議員

はい、分かりました。

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は午後1時からということをお願いします。

（休憩 午前11時57分）

（再開 午後1時00分）

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、④の質問に入らせていただきます。

総合振興計画の重点プロジェクトの位置づけでは、基本目標③「多様な産業が活力を生み出す」の5施策が少子化対策プロジェクトの特に関連の深い施策とされていない。これはなぜか伺います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

総合振興計画の最終的な目指す将来像として、「誇りと愛着を育み、一人ひとりが希望を持てる木島平」を目指すため、5つの基本目標と4つの重点プロジェクトの中でそれぞれの施策を位置づけています。

村としても、安定した仕事の確保と住居の確保が子育て世代の移住に重要であり、少子化対策に繋がるということは当然だと思っております。また、計画に挙げてある各施策が全て少子化対策に繋がることも認識しております。

ただ、位置づけについては、直接具体的な事業として重点プロジェクトに結びつく施策を位置づけ

ておりますので、ご理解をお願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

先ほども、村にしっかり稼げる産業がないということを問題にしたわけですが、さっきも名前を出した岡山県奈義町、ここは工業団地を実は作っているんです。そこで生み出された雇用が800名。つまりそういう生活できる基盤が揃っているから、似たような子育て支援が大いに効くわけですね。木島平は、今までそれをやってこなかった。

私「過去は変えられないけども未来は変えられる」この言葉が実は好きでして、今までやってきたことはこれは変えられない。でも、これからのことは今からやれば変えられる。やはり村長が一番最初に、少子化対策プロジェクトを持ってきているわけだから、安心して結婚して、安心して出産して、安心して子育てできる、そういう木島平になっていかなければ私は困ると思うんですよ。そういうことを関連付けないということ自体が、私はちょっと認識が薄いと思う。これからそういうプロジェクトに取り組んでいくという気持ちがあるかどうか。要するに雇用を生み出す仕事に取り組んでいくかどうか、村長のお考えを伺います。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

先ほど申し上げましたとおり、村が計画している基本計画の中で計画されたものについては、ほとんど全てのものが少子化対策に結びつくものと思っております。これについては先ほど申し上げたとおりであります。その中で、これまで言われています職場の確保として創業支援とか、それからまた、若い皆さんが安心して定住できる、そのための住環境の整備等についても、村では事業として取り上げて、これからも進めていきたいと考えております。

そういう意味で、先ほど申し上げましたとおり、直接的に施策に結びつくものについて、位置関係を示しておりますが、産業振興、それから若い皆さんの定住、それら全てが少子化対策に結びつくという認識については変わりありませんので、よろしくをお願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

私は、認識を伺ったわけではないんです。取り組むかどうかを伺っているんです。お間違いにならないように、もう1回答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

先ほど申し上げたとおり、取り組んでいると。そしてまた、新たな取組についても、これからまたご提案をいただいた中でいろいろ検討していきたいと思っております。

認識というのは、先ほど申し上げましたとおり、そういう意識のもとでこれまでそういう事業に取

り組んでいる、また、これからも取り組んでいきますというふうになりますので、よろしくお願いたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

さっきも言いましたように、過去は変えられないけど未来は変えられます。意欲を持って取り組んでいただかないと、やはり簡単に企業は来ません。簡単に起業もできません。意欲を持ってやっていただけますかということ伺っているんですよ。意欲を持ってやっていただけますか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

そのつもりで重点プロジェクトの第一番に掲げているということでもあります。また、村民の皆さんもぜひご理解を、様々な面でご協力いただければと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

いつも思うんです。日墓村長は、アクセル踏んでいるのだろうか、ブレーキ踏んでいるのだろうか。やっぱり大いにアクセルを踏んでいただきたいなと本当は思っているんですよ。この村を変えていただきたいですから。

5番目にいきます。総合振興計画の令和7年から令和10年までの平均出生数の目標を21人と定めているが、達成は可能だと考えていますか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

令和6年度の出生数は7人ということで、令和7年度の出生数は10人程度と見込んでおります。

現状では、目標に対して2倍程度の開きがあります。残念ながら、現状では難しいと考えております

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

その差を埋めていくのが少子化対策プロジェクトではないですか。ご意見を伺います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日躰正博）

目標に達するように計画を組んでいるということでもあります。厳しい内容だからといって目標を変えつつもりはなく、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、⑥こども家庭センターの設置以外に具体的な施策はありますか。

議長（勝山 正）

日躰村長。

村長（日躰正博）

先ほど3番目の質問の中でもお答えしたとおり、様々な施策を行っております。その辺については、その答弁の中でご理解いただきたいと思いますし、また、これから予算編成等も含めて、新たな事業、新たな取組について、しっかり組み立てをしていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

今「様々なことをやっている」とおっしゃいました。様々なうちの2つぐらいでいいですから、具体的に示していただけますか。

議長（勝山 正）

日躰村長。

村長（日躰正博）

様々と言ったのは、先ほど申し上げた3番目のご質問の中でいただいた現在行っている対策、それからまた、これから行うとしている計画について申し上げました。

議長（勝山 正）

丸山議員。

2. 木島平村の農業と観光の振興策について

6番 丸山邦久 議員

それでは、2項目目にまいります。

木島平村の農業と観光の振興策についてであります。

令和8年度地域再生マネージャー事業補助金交付申請書(案)の中に、木島平村の1次産業の付加価値生産額は166万円であり、全自治体1,741中1,444位とあります。また同様に、第3次産業は663万円であって、1,741自治体中1,588位であります。

①の質問に入ります。村長はこれまで木島平村を「農業と観光の村」と何度も発言しています。本村にとって重要な産業と位置付けていたと思いますが、この結果についてどのように考えているか、また、このような結果になった原因は何だと考えているか、答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

ご質問のありました、当村における経済活動を分類する区分ごとの一人当たりの付加価値額であります。これは、経済産業省と内閣官房が新しい地方経済生活環境創生本部事務局が公開している「RESAS（リーサス）地域経済分析システム」で出力した分析結果であります。

このリーサスで出力した一人当たり付加価値額は、各種統計調査によって集計された地域内の総生産額から原材料費等の中間投資額を控除して、地域の当該産業の従事者の数で除した数値を採用しているということであります。国のビッグデータでありますので、算出根拠等はずみづかになっていないことをご理解いただければと思います。

第1次産業と第3次産業のリーサス上の一人当たりの額の順位については、議員がご指摘のとおりであります。付加価値の増加による村民所得の向上が必要と考えております。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

村長の答弁に補足して、ご説明申し上げます。

農業と観光の2本が当村の重要な柱であることは変わりございません。ご質問にありました原因でございますが、当村の特徴であります小規模な農業形態や観光事業者が多いことが影響していると考えております。当村において、特に農業では経営面積が少なく、販売規模も少ない個人経営体が多く占めておられます。農林業センサス2020では、経営規模で言いますと、経営面積が0.5ヘクタール約5反歩以下の経営体が全経営体の約32%となっております。また、農産物の加工による高付加価値化、これについても思ったような成果が挙げられていないこともあるかなと考えられます。一方、第3次産業につきましても、大きなサービス業を経営する事業者が比較的少なく、第1次産業同様、小規模な事業者さんが多いためと考えられます。

この傾向は、長野県全体にも言えまして、都道府県別で申し上げますと、長野県は1次産業で47都道府県中44位、3次産業で39位となっております。参考に、新潟県では1次産業で18位、3次産業で26位となっております。先ほどの村の順位につきましては、近隣市町村ほぼ同水準のような状況でございます。

こういった状況は、以前から認識はしておりましたし、販売規模と付加価値を高めること、また、他地域との差別化、ブランド化というのが重要だということで様々取り組んできておりました。米は、市場で一定の評価を得るに至っておるかと思っておりますが、他の農産物や観光事業においては、木島平ブランドの確立ができていないかと言え、厳しい状況だと認識しています。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、村長の考えとして、この結果は低い水準にあると受け取ってよろしいですか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日躰正博）

付加価値生産額そのものが直接村民生活に、数値としてどういう結果をもたらしているのかというのとはなかなかちょっとわからない部分もあるわけですが、先ほど申し上げましたとおり、付加価値を高めることによって、村民生活の向上を図る施策は必要だと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

「付加価値は、どのように村民の生活に影響するかわからない」とおっしゃいましたけど、影響するんですよ。付加価値＝手元に入ってくる収入ですから、それが影響しないわけではないわけで、もっとそこを深刻に考えていただきたいと私は思います。

②に入ります。村長の考えとして改善策はありますか。どのようなものですか。

議長（勝山 正）

日躰村長。

村長（日躰正博）

先ほど申し上げた付加価値というのは、今回出された付加価値について申し上げました。付加価値そのものが村民生活の向上に結び付くというのはおっしゃるとおりだと思います。

ご質問の改善に向けては、地域資源を最大限に活用して、特に農業・観光の競争力を高めるための地域ブランディングを強化するということが不可欠と考えております。関係者との共通理解のもと木島平村の極みを磨き、取り組む必要があります。こういった取組を進めることで、個々の経営体の収益力の向上を目指してまいります。

また、農業については、水稻についてはある程度面積が集積されておりますが、畑地は進んでおりません。現在検討しています畑地の整備を進めることで、畑作農家の規模拡大に繋がります。また、創業支援金や特産品開発補助金による高付加価値販売を目指す必要があると考えております。

いずれにしても、こういった取組は村だけではできないものであります。議員各位を始め、関係される皆様のご理解のもと進めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、③にまいります。

9月議会の一般質問でそば店のフランチャイズ事業を提案したところ、「木島平産そば粉を使ってくれる飲食店を増やす」と村長は答弁されています。

すいません、ふう太ネットさん。持ち込み資料を提示してください。

（ふう太ネットにて、持ち込み資料を放送）

農業振興公社に確認したところ、そば粉はもう全量販売されているということで、答弁と整合していません。どのようにして木島平産そば粉の取扱店を増やすのか、答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

9月議会で村長が「取扱店を増やしたい」との考えを申し上げましたが、その前段で「安定的な収量と品質の確保が大前提である」とお答えしております。まずは、農業振興公社において、その生産体制を確立していただくことが重要であると考えております。

村としても、そば栽培は遊休荒廃地対策の有効な手段の一つであり、また、これを原料としたそばは村の特産品の一つであります。そのため、農業振興公社による生産体制の構築に向けて、必要な支援を行ってまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

平成28年から急に振興公社の作付面積と収穫量が増えてきているわけです。これ以前はどうしていたのかと言ったら、個々の農家さんでやられていたわけで、これを見てどう思うかと言ったら、村長は確か、「そばは私のときから始めた」というような答弁をされていたんですよ。私は、そのときそれ以前からあったよなと思ったんですが、推奨してやっているという結果がこれで、普通に一般企業でこれ出して私一生懸命やっていますと言っても、あんまり誰も、何言っているんだみたいな話になってしまうはずですよ。だって、収量増えてないし、作付面積増えてないし、どこが一生懸命なんだって言われるのが落ちです。

さっき言ったように、収量と品質の安定が大前提とおっしゃいますけども、では、収量はどうやってこれから増やしていくんですか。そこをお答えお願いできますか。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

9月議会の最後に申し上げましたが、農業振興公社が行っているそば栽培は、遊休荒廃地対策の一つであります。公社の方でそば栽培として取り組んだ土地について、担い手さんが希望すれば担い手さんに譲り渡して、担い手さんで経営すると、そうすると公社のそばの栽培面積減るわけですが、それ以外にもまた遊休荒廃地対策が出てきますので、それを公社が引き受けて、この提示いただきました資料のとおり、平成30年以降27ヘクタール余りをずっと維持できているという状況であります。

今年の生産の状況を申し上げますと、令和7年度であります。作付面積で28.5ヘクタール、前年度よりも1ヘクタールほど増やしてきております。来年度につきましては、また遊休荒廃地農地を公社の方で引き受けまして、2ヘクタールほどを増える予定でおります。また、そばの栽培につきましても、収穫適期に収穫できるように機械も整備をいたしまして、そばを取りこぼすことのないように効率的な収穫作業を図るということで収量を上げていきたいと、そういった計画になっておりますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

そういうお話ですと、村長が答えた「木島平産そば粉を使ってくれる飲食店を増やす」というのは、根拠もなしにおっしゃられたというふうに思ってしまうのでしょうか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

それは、フランチャイズという意味ではないと思いますが、木島平産のそば粉の収量が増えて、そしてまた、品質が一定の評価を得ることができれば木島平産そば粉を使ってもらえる、また、店も増えてくるだろうと思います。当然、村の中で加工してそばとして販売するものもありますので、そちらの方の販売、消費の拡大にも繋げていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

あのと時の話はそういう話じゃなくてですね。私は「もっと高付加価値で、しかも企画力とか労働を伴わない仕事が増やせるからフランチャイズ事業はどうですか」と言ったんです。ただし、取り組むのはとても大変だと思いますよ。経験ないですから、村長たちが。だけど、それに対して答えた言葉が「木島平産そば粉を使ってくれる飲食店を増やしていきたい」だから、そこにそば粉があって、それを使っていくんだったら根拠があるんですけども、そもそもないそば粉をどうやって回して増やしていくのか、それを私は伺っているんですよ。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

繰り返しになりますけれども、公社の方でそばの栽培面積を増やしていく、そこで増えたものを新たな取引先に繋げていくということも考えていきたいという、そういったことであります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

公社でそばの生産量を増やしていく、これは間違いないですね。今、お答えになったところ。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「公社でそば粉を増やしていく」と言ったことは、そのとおりであります。増やしていくというのは、面積が増えて、遊休荒廃地として公社が借り受けた土地を使って栽培をしていくということでもあります。また、土地を増やすほかにも、栽培の仕方を変えて、具体的には二期作にも取り組んでみたいという話でありますので、そういったことで収量を増やしていくということでもあります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

二期作について今お話出ましたが、二期作やっているところにも行ってみました。この場で言うてはいけないんだろうけど、品質的に木島平産のそばとして売れるようなものができるかどうか、私は疑問です。苦し紛れの答弁でなければいいですけど、増やして、乾燥能力がないってことも現実ですよ。乾燥機を増やすというお考えはあるんですか。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

今回、この議会で実施計画を議員の皆様にもお配りしていると思いますが、その中で乾燥機の増強を予定しております。今、手元に資料がないんですけども、令和9年度に増強する予定だったと認識しております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

前向きな答弁ありがとうございます。期待しております。

それでは④になります。カヤの平の牧場をブナの森にする事業は、とても意義深い事業だと私は思っております。しかし、本村の農業を考えると、カヤの平を農地として活用できないかと考えが変わり始めています。温暖化の影響で、日中の農作業ができなくなり、その期間がどんどん長くなってきています。日中フルに活動できるカヤの平は、農地として、私は魅力を増してきているように思うんです。村長の考えを伺います。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

9月議会の一般質問において「カヤの平高原でのそばの栽培をしてはどうか」という丸山議員からご質問をいただいております。これに対しまして、過去に栽培をした経過はあるものの、農地までの距離長く、通作に時間を要することが課題で、現在は取り組んでいないということを申し上げました。また、これらの課題を上回る収益が確保できるのであれば、取り組む余地はあるということをお答えしております。

その後、当時栽培に携わった関係者に改めて確認しましたところ、播種後の鳥による食害、それと収穫期にはイノシシによる甚大な被害があつて、この鳥獣被害が一番の課題だということを伺いました。

丸山議員ご指摘のとおり、カヤの平高原は冷涼で農作業には大変適した環境ではありますが、こうした鳥獣被害があるということがありますので、こういった課題を解決し、農業として安定的な収益を確保することは大変難しいのではないかなと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

課題があることはよく理解しました。課題というのはクリアするためにあるのではないかと、通常私は考えております。

木島平で農業をやりたいという人は、今の行政の考え方からすれば、これはもう木島平で農業を始められないですよ。小さな畑しか残されていない。そこへ来て人生かけて農業をやるということは、私は無理だと思うんです。ある程度の広さがあって、ある程度の農業生産量があるような農業でなければ、やっぱり生活できないですから。木島平で農業をやってくれる人は、木島平では無理だというふうに私は考えるんですが、村長のお考えはどうですか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

そのご意見はちょっと、村の中に現に農業での生計を立てている皆さんもたくさんおられます。そういう皆さんに対する若干失礼なご意見かなというふうに思います。

村とすれば、農業で生計が立てられる、皆さんがしっかりと生計を維持できるように、最良の支援をしていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

話を取り違えないでいただきたいんですよ。私は、現に農業をされている人のことを言ったのではなくて、これからこの村で農業をやりたいという人のことを言っているんですよ。もう1回ちゃんとそっちの方の答弁をお願いしますか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

現に、村へ来て新たに農業を始めたいという方が年に1人とか、人数は少ないですが、おられます。そういう皆さんにも村は支援をしているわけでありまして。そういう皆さんは、村の農業の可能性を信じて就農していただいていると思っておりますので、村とすればできる支援はしていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

3. 調布市との姉妹都市提携について

6番 丸山邦久 議員

それでは、3項目目。調布市との姉妹都市提携について伺います。

質問に入る前に文字訂正をお願いします。質問用紙の一番前「前スキーシーズンから」とありますが、「今スキーシーズンから」の間違いですので、訂正をお願いします。

それでは、質問をさせていただきます。

今スキーシーズンから調布市中学校スキー移動教室が木島平村で開催されなくなりました。木島平

の観光にとって大きな損失であると私は感じております。

①です。そうなってしまった原因は何ですか。端的にお答えをお願いします。

議長（勝山 正）

日基村長。

村長（日基正博）

大きな要因は、保護者負担の軽減にあると思っております。コロナ渦からの経済活動とインバウンドの需要回復により、物価、人件費の上昇はもちろん、宿泊費も大きく上昇しており、木島平村にあっても例外ではありません。それに加えて、調布市から木島平村までの貸切バスの運賃も、燃料費の高騰や運転手の深刻な人手不足と労働条件改善により大きく上昇しているという状況であります。

調布市としても保護者負担の軽減を図るため、宿泊施設の比較検討を行うなど経費節減に努め、村としても、リフト券代の補助を行うなど対策を講じてきましたが、根本的な解決策にはなりませんのでした。

また、調布市が保有する社会教育施設である「調布市八ヶ岳少年自然の家」の有効活用という側面もあり、最終的に木島平村での移動教室を取りやめになったという決断があったと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

そうしますと、調布市の保護者負担軽減のためにやったことだというふうに今お聞きしましたが、それで正しいですか。そのとき、調布市の教育長が来られて話をされたと思うんですよ。かつてそういう説明をされました。聞いています。そのときの対応が多分、当時総務課長だった今の副村長だったと思うんですが、もう1回その当時の話をしていただけませんか。

議長（勝山 正）

丸山副村長。

副村長（丸山寛人）

今のご質問でございます。

当時の調布市の教育長が村の方へ来られまして、スキー移動教室を中止にするという内容でございます。私の記憶の中であるものにつきましては、まず、村長が答弁したように、いわゆる保護者の負担です。これは金額的なもの、いわゆる調布市の負担も当然あるわけなんです、それを超える部分を保護者から負担いただいているという部分が一つあります。

それから、冬期間ということでもう一つ記憶にあるのは、インフルエンザ等の対応の際に、保護者が木島平まで来るといふ負担があると、そういうのもお聞きしたような記憶がございます。

あとは、村長が答弁したとおり、八ヶ岳の施設改修に伴って、調布市としても施設の有効利用を進めなければならないというような点の理由があったと記憶しております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

私には、ちょっと違った意見も耳に入ってくるわけです。今の答弁を聞いていると、一方的に調布

市の事情が一方的にあるんだという話ですけども、ある意味、私、丸山副村長が当時説明されたときに、調布市は大人の対応をされたなと思いました。本当にそう思っているかどうか、ちょっと疑問だなと思っていました。

それで、私がこの通告書を書いているときに、朝方書いたんですけど、調布市スキー連盟の人からLINEが来たんですよ。内容を言うと、シャトレーズで今シーズン、これからのシーズンでやるようになったけども、父兄から何で木島平でやらないんだというクレームが多い。もう一つは、これからこの後にあるんですけども、市民スキー大会、今年までは木島平でやるけども、来年からはもうやるかどうかわからないというLINEが来たんですよ。

本当に、相手に一方的に原因があって止められたのか。普通に取引だったらそう言われても、こっちに落ち度があったのではないのかなと思うのが普通だと思うんですが、そういう考え方はなかったですか。そういう考えはしなかったですか。

議長（勝山 正）

丸山副村長。

副村長（丸山寛人）

いわゆるこちらの落ち度というのは、こちらの不手際もしくはこちらのサービスの不足、そういったものとして捉えるのであれば、それは、調布市の方から直接そういう具体的な話はなかったもので、どこが、どのものが、もしくはどういった料金がというのは具体的にはなかったことは事実でございます。それが、調布市の対応としてという形で捉えるかどうかというのは、木島平村としての考えになるかなと思いますし、それを詮索したり追求するということは、村としては当然調布市の方へは聞いておりません。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

なかなか聞ける問題じゃないので、そこはやはり、自分たちでやってきたことが落ち度がなかったかどうかということは考えるべきだと思う。某企業に1万円という破格の値段で売るときに、せめて、例えば今で言えば調布市との関係に傷が付かないようにちゃんとやってくれということが言えなかったか。私は、一番の原因はそれだと思うんですよ。少なくともあそこで事業をしている業者さん、それと一番の上得意です、調布市のスキー教室というのは。そこに迷惑がかからないようにやってくれということがなぜ条文に盛り込まれなくて、なぜやってもらえないのか。それが私は一番の問題だと思うんですよ。やっていけばこんな話はなっていない。どうしてそれが盛り込まれなかったか、お答えをお願いします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

「どうして盛り込まれなかったか」というご質問でございますけれども、当時、私が産業課にいたときに担当しておりました。いろいろな条件の中で、そういった今までの取組を譲渡先の企業がどのようにそれを受けて、どういう判断をされて、今の経営に至ったかということに繋がっていくんだろうと考えております。ただ、譲渡先の企業についても、そのスキー場経営についてどうやっていったらいいのかというのを考えられた結果だと判断をします。「契約の条文にどうして」ということでご

ございますけれども、細かな事業について、村から一つ一つの条件を提示してございません。今までの経営の状況というのも含めてこれを受けていくかどうかというのは、先方の企業にお任せをしたということもございますので、可能な限り引き継いでいってほしいという思いと言葉ではありましたけれども、条文には盛り込まれなかったということでもあります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

さっきも言いましたけど、過去は変えられない。未来は変えられる。なってしまったことはしょうがないと言えましょうがないですけども、やはりそこに、私、村長にも言いましたよ。反省がないから成長しない。次にいけないですよ。もう皆先方さんのお考えですから、先方さんの都合ですからと言ったら、それは次にいけない。自分たちがやったことがここが不足していたとか、そういうことを考えて反省するから人間というのは成長するし、次に生きるんですよ。なかなか言ってもわかってもらえないかもしれませんが、世の中とはそういうものなんですよ。

②にいきます。調布市との友好関係に影響はないですか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

影響はないのか、残念ながら、中学校の移動教室については、冬の木島平に訪れていただく機会がなくなってしまったわけですが、調布市とも連携して、夏の合宿時期において、今年度創設した木島平村スポーツ合宿支援事業補助金を活用していただいて、調布市内の都立高校の複数の部活動で木島平村での合宿の実施につなげてきております。

また、全戸配布される調布市報における特集記事の掲載、それから、調布市民を対象にしたバスツアーの開催や、調布市木島平交流クラブなど市民レベルの交流、合同作品展といった文化交流、ふるさと納税コラボ企画、そばという共通の特産品をきっかけとした相互の往来などを行っております。

また、木島平の豊かな自然環境を知っていただくとともに、農業祭や商工まつり、マルシェドゥ調布など様々な機会を捉えて、特産品販売などを行い、姉妹都市である木島平村のPRに努めております。これまでの友好関係に影響はないと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

最後の「影響はないと考えております」だけでよかったんですよ。私、次に聞こうとしていることを先に答えられては正直困ってしまうんです。そういう答弁をやめていただきたい。簡潔明瞭に影響はないというふうに言ってもらえばよかったんですよ。

村長は、影響ないと言われましたけど、今まで毎年、中学生が病気でもない限り必ず来ていたわけです。これが来なくなる。これから木島平を知らない中学生がどんどん卒業していくわけです。これが、影響がないわけじゃないじゃないですか。今、対策として考えられていることを必死になってやっていかなかったら、これ影響出ます。影響がないと考えられる根拠は何ですか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

友好関係については、影響はないと。ただ、議員がおっしゃるとおり、人的な交流について将来的にそういう可能性があるということは確かだと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

それでは、③を先に答えられちゃったので、ちょっと記憶していることがあんまりないので、4番にいきます。お願いですから聞いたことに答えて、次の質問のことに答えるのをやめていただきたい。議論が深まりませんので、やめていただきたい。よろしくをお願いします。

④調布市民スキー大会の今シーズンは木島平で開催できるが、来シーズンは開催できるかわからないという声もあるようだ。これはさっき私のLINEに来たとおりの話です。このような声が上がること自体芳しい状況ではないように感じるが、村長は、これでも影響はないと思っていますか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

議員からのそういうご質問であります。私の方では調布市民スキー大会については、毎年2月上旬に村のスキー場で開催され、主催される調布市スポーツ協会からご案内いただいて、開会式に出席して選手への応援を行っております。調布市民スキー大会が来シーズンは開催できるかどうかかわからないというような話は聞いておりませんので、私とすれば、引き続き来シーズンも開催していただけるだろうと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

姉妹都市提携を結んでいる大事な調布市でありますので、村長の言うあらゆる手段、いろんなことを考えておられると思いますが、やっていただきたいと思えます。

常に思うのは、プランがあるのかどうなのか、要するにやるかが決まっているかどうか、実際にやっているかどうか、それについてちゃんと検証しているかどうか、それが次の計画に反映しているかどうか、そういうことをやっぱりきちっと考えて実践していかないと、いつまで経っても天気のせいとか、相手のせいとかという話だけでは、これからの木島平はうまくいかないと思うので、Plan、Do、Check、Actionをきちっとやっていくかどうかについて村長の考えを伺いたい。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

調布市民スキー大会とはちょっと違うかと思いますが、先ほど事前に答えられると質問できないという話がありましたが、私が先ほど申し上げたのは、これまで行ってきた事業を申し上げたわけであ

ります。新たな事業として、桐朋学園との継続的な取組や、それからまた、給食の提供を通して食育を行う、そのことで木島平を知ってもらおうとか、これまでの事業のほかにも新たな取組を企画して、進めていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

以上で、丸山邦久議員の質問は終わります。

（終了 午後 1 時 4 8 分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午後 2 時 00 分とします。

（休憩 午後 1 時 4 8 分）